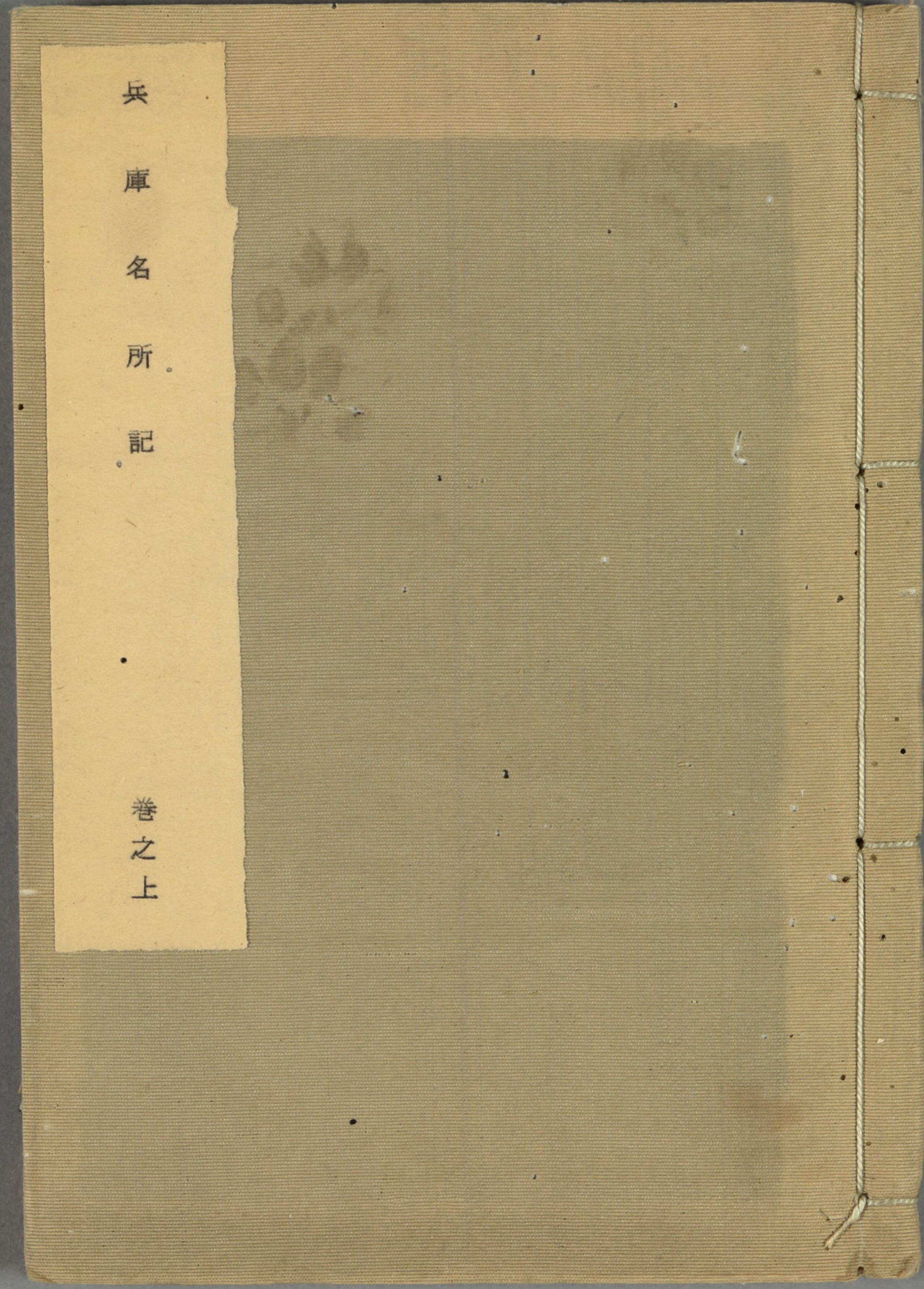




兵
庫
名
所
記

卷
之
上



序

予看違和於坊市之次有示兵庫名所記者
闕之雖匪寡不交於一州其畫中有山川江
海亦有曠野邨落也而神祠梵宇廢宮荒墳
森森亦既多哉將以區別乎方程按討乎故
事若夫貴客之歌章騷人之詩賦及幽荒
父之談閭巷傳聞之語共收並貯之既而珠
之不得不廣則其亦不徒不冗也然裁制



之五最得觀而... 嘗遊於... 地曰擊...
三焉令也按此無索之則不賴縮地之術而
瞭然乎几席之間美矣吾子勤焉且夫家務
煩擾之餘理來會晤之徒森非潦倒林涸彼
惑憚朽浪度日之度者而尚於此好事苟可
謂有所用也而不徒消國香哉矣

廣永庚寅端五日

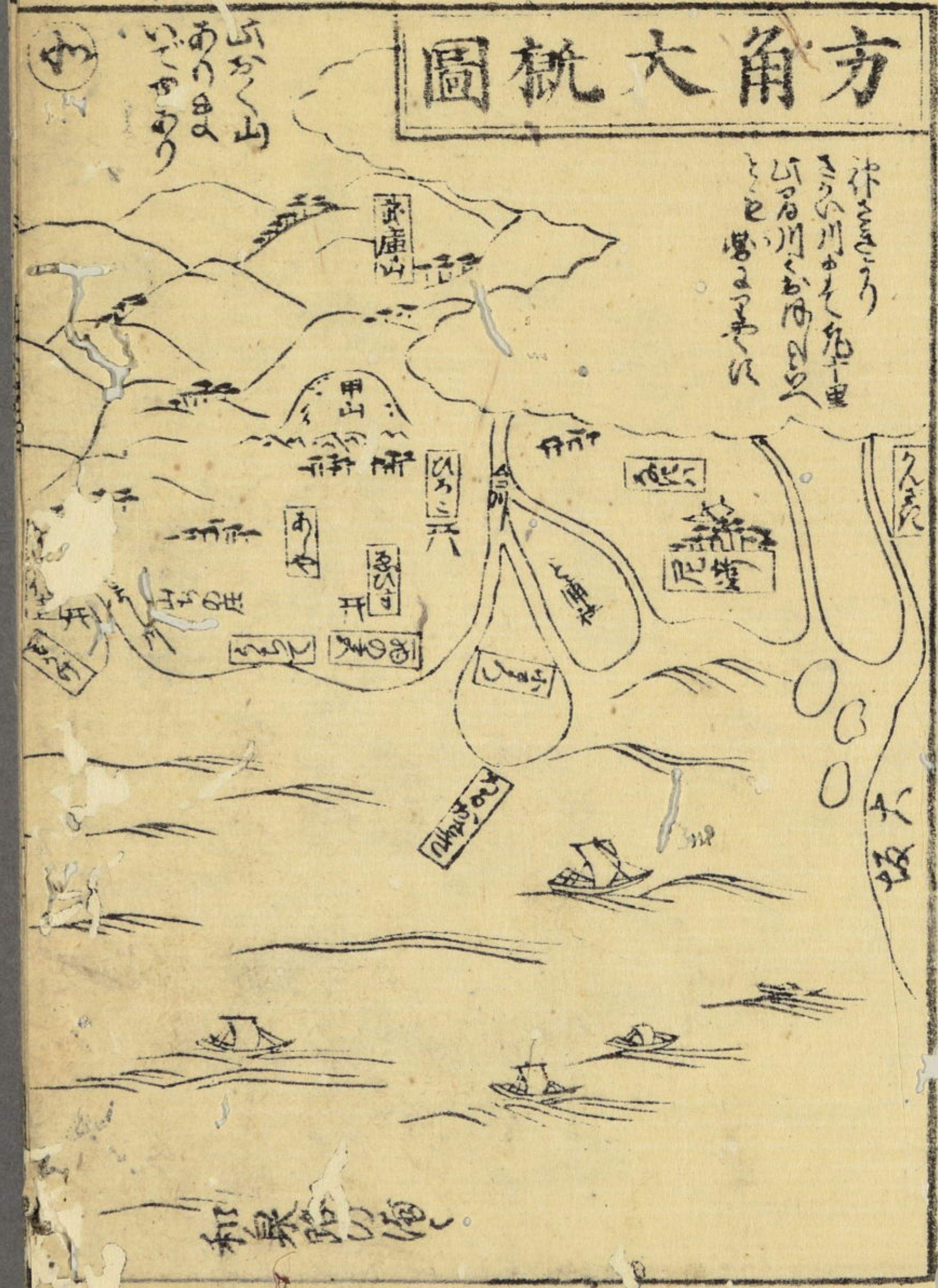
州澤醫生識



凡例

- 一初丁に大概の惣圖として最方角を引
- 一上乃巻ハ兵庫島迄名所を先うて長北乃方
西之宮まで五里の内且く五里回より上津邊に
及ぶまで又是處に古迹を同巻の末に追加
- 一下の巻ハ兵庫島の南西の... 揚子橋磨... の
境川まで約行凡二里名所回必めて終極
- 一各所の古歌續集より重し載るるは... の
録し一二首宛置る
- 一前此の巻と積見兩の巻後丁に集むるは
乃法... あり

方角大航圖



山かく山
ありあや
いああり

津まきり
まの川中を舟十里
はる川を舟の
とと 雲より舟

和泉路の地

攝津 武光俗傳 探女 入警船 此國ニ
 攝タル高津ノ号ヲ取テ攝津ノ國ト稱ス亦漢書云
 攝然トシテ天下安云 宇景云攝ハ靜謐ナリ兩儀
 相共ニ要津ノ連續ニ取テ大上國トス上管十三郡所
 謂
 一西成 一住吉 一東生
 一武庫 一島下 一豐島 一川邊
 一免原 一有馬 一八部 一能勢
 は紀の郡の矢田郡の免原郡乃二郡あり又武庫
 川ノ邊の免原郡に舟を加ふる也



兵庫名所記卷之上目録

- 一 福原都^{ふくはら} ○並地形の平
- 一 来迎寺 ○一ききつる霊宝
- 一 若狭守^{わがさのり} 経^{つね} 後^{のち} 塚^{つか}
- 一 小宰相^{こさいしやう} の^の 房^{ぶどう} 石^{いし} 塔^{たつ}
- 一 雪見^{ゆきみ} の^の 所^{ところ} 祈^{いのり}
- 一 鷲^{じゆ} 越^ご
- 一 安德帝^{あんだい} 假^{かり} 皇^{みかど} 居^い
- 一 楠正成^{くすのしまさなり} 塚^{つか} ○石^{いし} 碑^{いしぶたけ} 図^ず
- 一 宇治川
- 一 篠島^{しのしま} の^の 由^ゆ 来^{らい} ○舞^ま の^の 島^{しま}
- 一 佐比江^{さひえ}
- 一 漆川^{うるしがわ}
- 一 みま^{みま} し^し 山^{やま}
- 一 夏野村^{なつののむら} ○水^{みづ} 室^{むろ} の^の 間^ま
- 一 天王谷^{てんわうや}
- 一 差方塚^{さかたつか}
- 一 廣嚴寺^{くわうげんじ} ○楠^{くすのき} 正^{まさ} 成^{なり} の^の 塚^{つか}
- 一 再度^{たふた} 太龍寺^{たいりゆうじ} ○石^{いし} 谷^や

神戶村

河原兄弟塚

生田大明神

梶原井

北野天神

布引の滝 ○日寺

小野坂 ○日寺

生田里

摩耶山切利天上寺

船寺八幡

花村城跡

生田森

龍梅 ○敷盛萩

城ヶ口印石

生田川 日山池海浦磯

砂子山

敷馬の浦 ○日寺

同若菜

求女塚

弓弦羽嶽

御新山

鬼系住吉社

山吹磯迹 日湯

葦原里 日津沖浦海

湯えの薬師 日松

阿保親王御廟

佛前沖 日濱

追加

廣田社

鷲林寺

涉新森 ○麓松系

灘田浦 ○五百傍

本丸稲荷 ○おとりね

夜鳥塚

打出村 ○金津山

宿河原

西のまや 名次十代目

武庫山 六甲山

感應寺

- 藤原の松原
- 鴨尾橋 里
- 小島河橋
- 琴浦明神
- 難波の里
- 大拍の浦
- 長例村
- 津三和
- 武庫川
- 猪名
- 坂江
- 浦の初橋
- 神崎

兵庫名所記卷之上

一 福原都の事

柳根津の國史曰那福原北在兵庫八應保年
 中に築為成柱一七後平相國清盛入る淨徳の沙汰
 しては所よむと絶愛一院小く成く治養口奥に

六月二日人王八十一代安徳天皇 今年三歳 一院上一多
 又殿とくめなるを政大御下月御之若年家
 かのき政入るを物一門の人こそ外百家人氏しん
 山崎のふ本妻障よりは海原に後より人他大納言
 新田村小同 此目 新田村 此目

西宮にて上総の徳大寺の大家の御殿に
宰相の通親奉りてあはせりて
の友夫をむくく和回乃れ永西にせとて
改乃れ此の刻の志あり一宗ありて
公のまらしく金葉ありて
改の政事ゆきとて久く又改めりて
此十一月廿一日回教又還幸ありて
此地よりくく候あり

○後系抄の地元の事源平盛徳記小云
金政生田廣田西乃名覺と並りて
ありて雀の松東流紀乃れ
ありて思縁あり

西井小幡と布川の橋乃白玉岩間
ハ登るの事と校む曉乃嵐の漢と
茶海入天を望せり夕陽を沈
漫くして遠帆を此浪又清ま
眺望煙波と眼と遠く月の名と
清海乃山なりろく煙火燃ら
いつきもとりく心すところあり

一築港の由来

古政大平信盛公は兵庫の浦上
乃非美ありんが為よとて
て築港の始なり八月二日

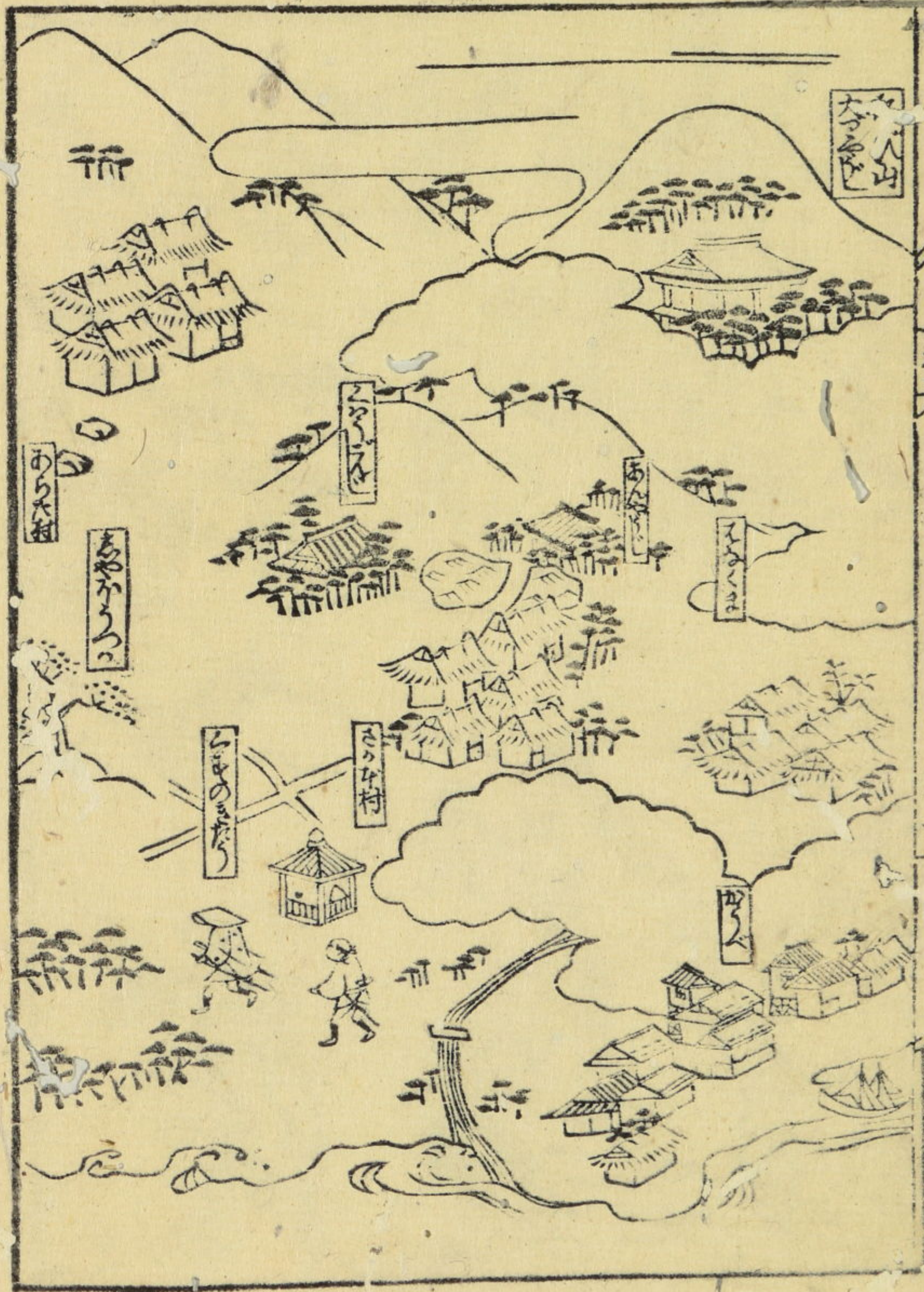
一 龍神の窟の裏海にありてまゝに龍を遊ばせし三十八年
 河原民が成良なるゆゑとて築きたり又南風が吹く
 龍白窟とて又海と濁りしあり改て成龍なるに
 故小嶋の橋全阿倍の泰成とてよく同く小嶋又文成の
 故神とてよく志りて考へけり又通例ありてあり
 がし人種とて入く築一の島に成龍すこととて是に
 依りて南島生田の小嶋に園とすへ姓名の旅人せや
 捕へしにて款限ありて又平ねる家童にれと児
 童のまゝありては人の歌とて長く我一人は
 に入る今に昔人の藝白馬に白鞍がさす景海内ふ
 りしこやせき又教のふよ一切終てまゝ一彫付て

一 築橋寺 今兵庫町家の内東海をいひ
 浄土西山流經書山本運と号す平清盛公名一別
 あり應保元乙七月十三日佛供養あり禮者八七堂か
 藍のる場ありとて建武の比破却すなりと傳
 一 観音堂 和田岬海底あり

○ 聖靈窟
 一人櫃の由糸松平七郎の木さう一信如の由糸五十三年丙



一 纏乃釈迦（橋） 一 每財天像 弘法大師作
 一 梅の實（葉） 伽藍彫刻の像 けり什物（物） あり
 一 纏乃橋 築治惣（所） 之建武の比服（衣） 在（在） 此
 一 依比（比） 兵庫小湊（湊） へ西
 一 若狭古車（車） 後塚 右（右） 之（之） へ（へ） の（の） つ（つ） ぎ（ぎ） 下（下） 本（本） の（の） 里
 一 永（永） の（の） 中（中） の（の） 谷（谷） 合（合） 我（我） 為（為） 城（城） の（の） 目（目） 形（形） 和（和） の（の） 志（志） 高（高） に（に） 討（討） せ（せ） 居（居） 居（居）
 一 濠川 兵庫小の出口（口） 門（門） 下（下） 一丁余街（街） 乃（乃） の（の） 川
 一 義（義） 入（入） を（を） 川（川） 敷（敷） 舟（舟） 漕（漕） 出（出） 舟（舟） 追（追） 風（風） 小（小） 麻（麻） の（の） 寺（寺） 今（今） 津（津） 後（後） の（の） 角
 夫木 津（津） の（の） 上（上） 波（波） 多（多） くら（くら） ぎ（ぎ） 多（多） くら（くら） ぎ（ぎ） 多（多） くら（くら） ぎ（ぎ） 湯（湯） 今（今） 月（月） ぬ（ぬ） れ（れ） 此（此） 西（西）



一 小室村の處へ降 漆川の鳥取村成る所は此
 いはがの六越ある三位通盛の妻飯形は初に範賢に女と
 通盛一の若少く初はあを越さず永三は二月十四日
 弘より身とまげ果は下縁の老家に夫婦の居場と
 たり今に古跡あり

一 漆山 川乃ありあり
 一 雲乃の湯所 御乃方山の湯山すそにあり
 一 岡鶏野 一ヶ所の境あり
 一 飯束村のこけ湯盛公吉見の亭と並りあり田路あり
 一 今とは村と云其原は十丁を越えあり此村蘇に一村あり

○氷室と嫁に伝ふる事
ひじり村のこけお氷室の根えへいどもも洗つまひ
らつたげも世のひじりいお紀洋あり

いけのせに大守あつたまらふ氷室今之終せりけり

いけのほけおの結を根りや氷室はあひのこ初え

日中紀曰仁徳天皇の御宇
家國中皇太子開羅
に結し御小御子ふらり
御中とえんあひは
御宿を大山まで行く
同多のよき氷室と皇
のいづくもあひの事
いん又何かりらも
福をの
いよとと結く
夫余よ事と
いづくこのうへにおが
ぬく敷芽結と
とらこりや
いづくもよと
あひを

小夏月と結く津どもあつたまらふ
いづくもあひの事
いん又何かりらも
福をの
いよとと結く
夫余よ事と
いづくこのうへにおが
ぬく敷芽結と
とらこりや
いづくもよと
あひを

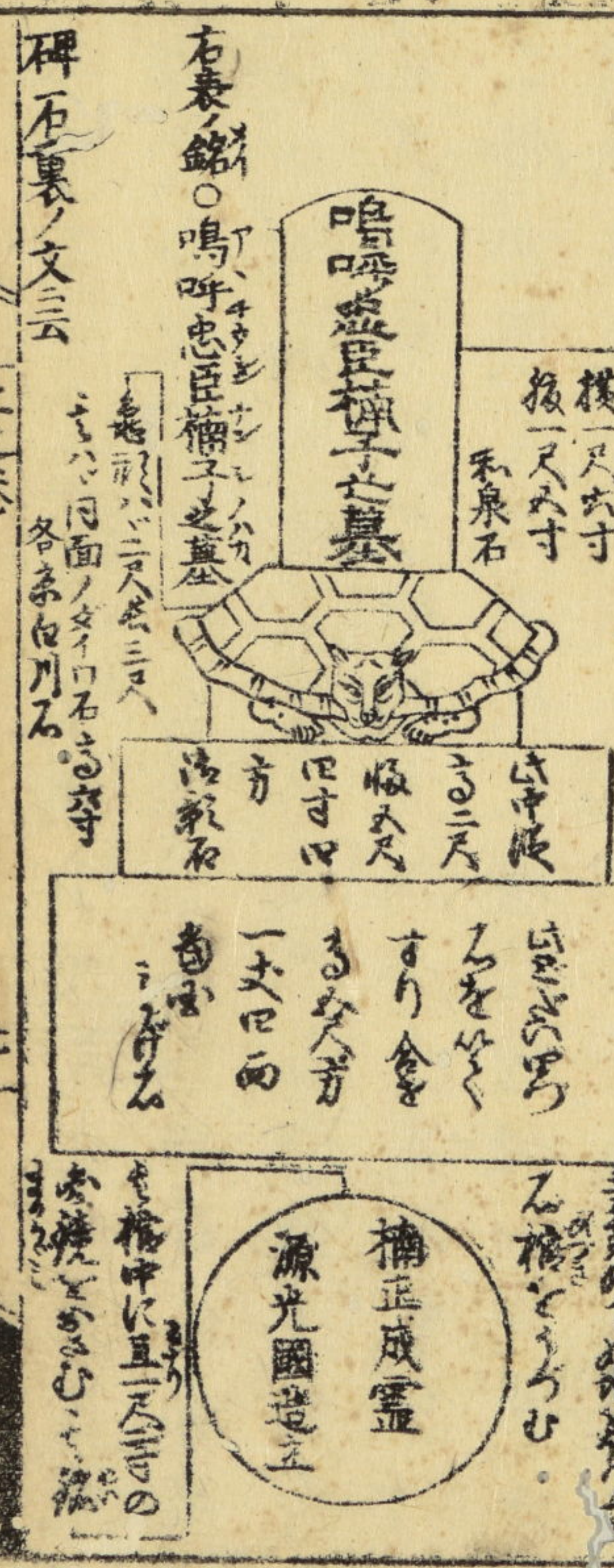
山家集
夫木
又日中紀云仁徳天皇秋七月八日
乃皇女と云ふ事
あり
おしゆり遊樂あり
と毎朝はげゆり
麻の書写あり
この書もあつた
いづくもあひの事
いん又何かりらも
福をの
いよとと結く
夫余よ事と
いづくこのうへにおが
ぬく敷芽結と
とらこりや
いづくもよと
あひを

一 六王谷 兵庫より半里程の南馬場温泉
 一 安徳天皇御遺骨 葛田村の山ありて
 一 大納言年の東鑑の山ありて
 一 差方塚 葛田村の東畑の中ありて
 一 源光國造立 源光國造立

一 楠河内判官橋正成塔

兵庫より北畑の上の坂中村の南に中畑といふ
 塔中橋の二本ありて一は元禄四年の秋に水戸
 黄門光國公古墳とて碑を建てて

其圖



碑石裏ノ文云

各石白川

源光國造立

忠孝著乎天下日月麗乎天天地無日月則
晦蒙否塞人心廢忠孝則亂賊相尋乾坤反
覆余聞楠公諱正成者忠勇節烈國士無雙
蒐其行事不可概見大抵公之用兵審強弱
之勢於幾先凌成敗之機於呼吸知人善任
體士推誠是以謀無不中而戰無不克誓心
天地金石不渝不為利回不為害怵故能興
復王室還於舊都諺云前門拒狼後門進虎
廟謨不藏元兇接踵搆殺國儲傾移鍾虡功
垂成而震主策雖善而弗庸自古未有元帥

妬前庸臣專斷而大將能立功於外者卒之
以身許國之死靡佗觀其臨終訓子從容就
義託孤寄命言不及私自非精忠貫日能如
是整而暇乎父子兄弟世篤忠貞節孝萃於
一門盛矣哉至今王公大人以及里巷之士
交口而誦說之不衰其必有大過人者惜乎
載筆者無所考信不能發揚其盛美大德耳
右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將
楠公賢明微士舜水朱之瑜字魯瑛之所
撰勒代碑文以垂不朽

右碑文十行跋文二行都合字數三百三十字也

内雨露の霞ハ瓦菅三間四方也

一 喜提所

坂中村西へむきむらあり

醫王山廣教院傍傍線あり号も後だいに天皇皇山勅乳

周山焔惠灼熱和る兼剣中なる兼津如耳堂と燄燄殿

稱と心成の想像ありひよ二代記

○正成院元徳武三年丙子五月念五日

○周山明極院同九月念七日と由る此おん念連板

又書也

補正成同月正季いさの殿殿ふかやく一家十六騎助後
七十三人自雲と云云成軍三輩

○廣教寺水末又大聖山妻養ととと貞喜の中

尚教法信自沙廊おん其托あり

一字流川 兵庫分八丁小御所の小川けあ上通り

宇流中村 石まのあし 中流村くと亦あり

一再度山大流あり 兵庫分八丁小御所の小川

坂口おん流中村と云ふ小川あり

△此をぬ意極教あり けお伝をあり

杯苗山と始六尾山と一稱徳帝の法字 神後東を二

年 亞相和氣信廣塔後小のりく 仍基信二刀三

札のぬ意極教自雲の像とゆふて 因剣りぬぬ

又延慶年中に弘法大師いふよまのるる像と承法の

事と世にい入る一徳い春りの形を正し海より一徳
約あるく大同の中少くし一徳い山あり一徳い海より一徳
一徳い海より一徳い山あり一徳い海より一徳い山あり
一徳い海より一徳い山あり一徳い海より一徳い山あり
一徳い海より一徳い山あり一徳い海より一徳い山あり

○觀應三の志私判友佐徳彦五郎見才徳徳の西
海の徳の徳と志私判と志

一蛇谷 日山内あり

私法大師入意の内院は私と徳い徳い徳い徳い徳い徳い
とら川とらんとい徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い
すむい徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い
又志よりい徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い

世大徳の冥助ありとい光山一徳大徳又は徳い徳い
つくい徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い

一徳い村 宇治川のつて徳い徳い徳い徳い徳い徳い

このり西の口と走水次と二のりや及志と徳い徳い
このり西の口と走水次と二のりや及志と徳い徳い

○和名類聚 徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い
昔神功皇后三韓退治徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い

一徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い

は徳の事一徳十の徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い
か夫回徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い徳い

物有海、亦野にまじりて、
にまじりて、
天正三の乙と居城し、
加賀を治むと云ふ事、
此後、
向い、
倉庫と今に城郭の在り也

一 河原見才塚 神戶村に三丁半あり、
塚中、
位人、
ハ光、
徳政、
討、
物、
と、

一 生田本村 神戶村に八丁半あり、
夫才、
後、

東水原系合戦の時平家一の谷乃城に遊りて
大將軍新中納言平知盛等三位平重衡は西川の
乃藤原の南海まで送着すと東垣梅と云はるる
是も西南一の谷梅原村に八咫の里ありて
城内よりとくや

一日大明神

とくしの内と云ふ

後神宮

祭神一府

稚日女尊

按社九卷の四卷

天照太神所妹と云ふ秘

日本紀 稚日女尊坐于齊服殿而織神之御衣也
神功皇后紀云伐新羅之明年二月稚日女尊誨之云
吾欲居活田長峽國因以海上五十狹第令祭之云

御位貞觀九年十二月十六日從二位

毎年八月乃の祭あり後系の長村氏の子あり

一梅梅

右社内あり

一の若合戦乃に梶系父子二度のけり河端と源を系
梨梅の枝と云ひけり一梅と云ふ一梅と云ふ
一梅梅

玉葉 梅梅捨くいつら星田の縣と云ふ梅と云ふ
一の梶系梅 同社内あり

大磯城のこゝに梶系系三系梅け井ありと結びて

運と星田の梅と云ふ

一教盛茂

同社内あり

大夫平教盛は水の森と號し、和徳と他は道徳徳也
 又教盛の遺子ありて教道新を父にありんて一の谷
 へありたりありて父よは水に對面せしと云ふ事あり
 古記ありしと云ふ事あり

一 城ヶ口下の石 生田の森を二丁半ありて對
 あり提原系船二交のうけつけに水下の石を

一 小中天神 日鏡三小中村より
 治兼の弟又系大綱を冠継徳とすは久和田のみ
 されりて流焼ありりて傳也

一 生田川 森が東側なる川なり
 水が南へ流さる川也布引の流なるれ生田の流

いかにしていびくありて射しその備えたるあり
 くりのくより求女隊のありてありてありてあり
 義 鹿丹のありてありてありてありてありてあり

一 生田川 日池。日海。日浦。日破 建新也
 郭云生田の山乃七のありてありてありてあり

一 月やうの生田の池志きなるに新原ありてありてあり
 ねんれは生田の海のみ日はありてありてあり

一 浦必れは生田の浦のありてありてありてあり
 浦必れは生田の浦のありてありてありてあり

一 布川流 生田川のありてあり

右 康光
 左 康光
 下 康光
 上 康光

遊二遊也て備るる事余海邊からとの事也
地くまへへううく

十載 ありきのうのうとくもか推はじん高川の遊

夫木 有川の遊乃白糸友々也後々そ人の心懸くらぬ

平治物語云小松の内前山遊へ痛く遊遊海おの玉の何

人難波の脚は傍重重の命はうらぐ遊童龍云遊遊

遊遊のうらぐで夢のま

遊のありに遊遊ありあり有り布江と号人悟

たふありきと縁と中もたさう旅者多人のゆきん地

高源をりりしれれ程縁也

一 砂子山 危原勢越内村の上遊りなり

夫木 茅の原れ砂子表山のおまのりてまね布江遊

一 小野坂 同傍 生田川の東小坂色傍八川すこ

坂首 旅人のた海岸小つじりのは生田れ小おのあ葉もか

夫木 同ねも推あそけはのまね生田乃小井はくまひん

○又生田れあ葉毎の心月に 内裡献ぐ今生田村のま

中尾村分ちま

一 敏子浦 根漢村宗友村との名漢意と云はれり

夫木 必中も日あめ 三大女 五七女 書

横千 一のそへふいぬれ浦のゆまやうらうは神おん

新多 一ねちうり里れまも同ひていあれあよ海の波



夫木 一 生田里

夫木 一 輪系少之風之とけそきけ生田の里に秋の暮 俊成

日 一 秋風小同は人のかきつさる生田の里に秋の暮 俊成

一 麻子那山 龍系那畑系村と地村のこ

あんまう 龍系那畑系村と地村のこ

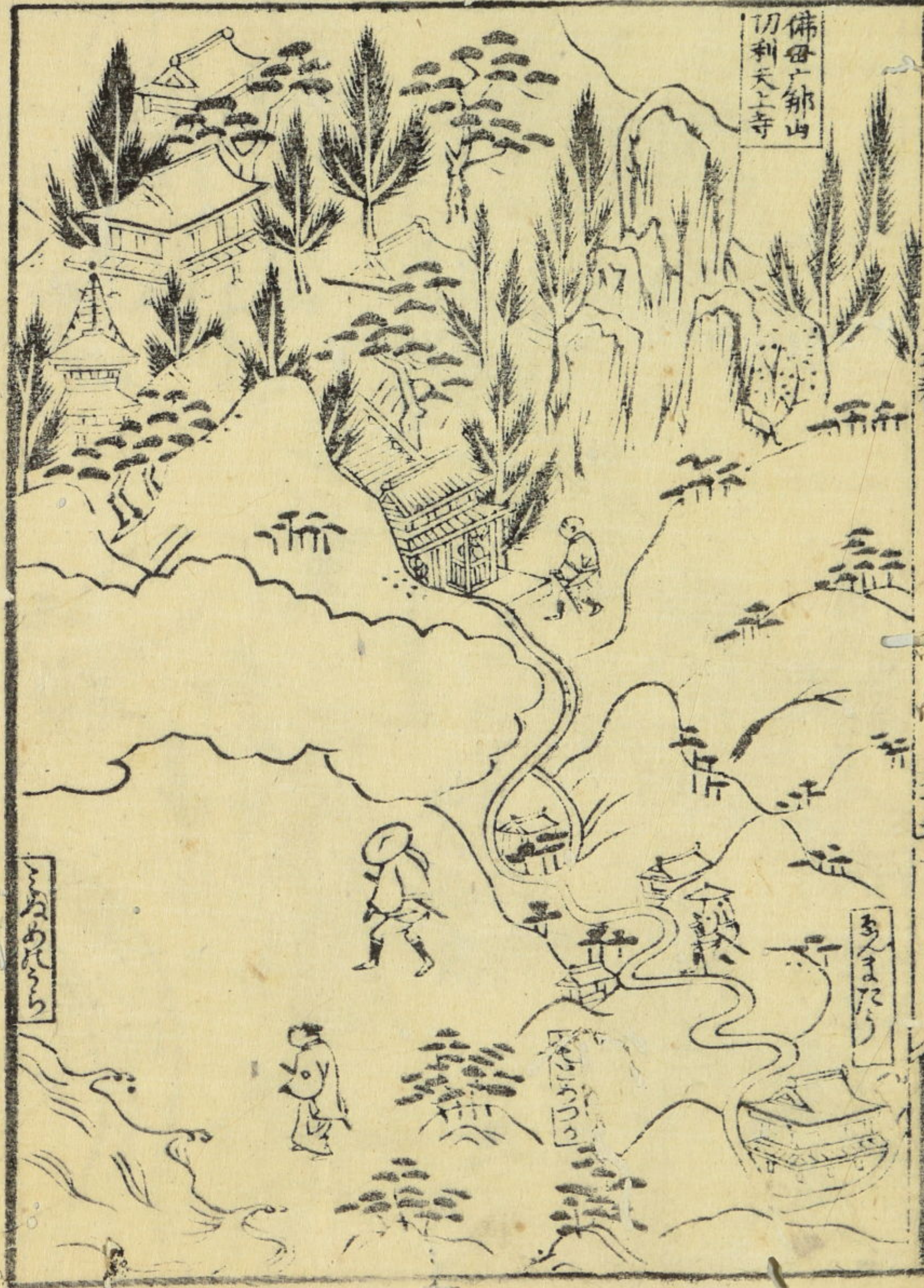
仁王門より内側の石階七段敷合二百十壇

▲本堂 南向 十一面観音 ▲夫人堂 ▲西方塔

その他法事あり

折高山の天武天皇の御治世天皇法乃仙人の至創する

佛母广都山
初利天上寺



不^レく^レ本^レを^レ親^レ世^レ者^レに^レ行^レ三^レ寸^レの^レ美^レ像^レ是^レ初^レ天^レ竺^レ佛^レ舎^レ
 産^レに^レお^レひ^レく^レ圖^レ像^レ櫃^レ舎^レと^レい^レく^レ釈^レ尊^レ四^レ千^レ二^レの^レ中^レに^レ是^レ法^レ鏡^レ
 今^レの^レ如^レ法^レ二^レ軀^レ一^レ刀^レ三^レ礼^レ一^レ彫^レ刻^レ一^レの^レ一^レ軀^レ四^レ寸^レ今^レ梁^レの^レ
 帝^レ於^レは^レ納^レめ^レ一^レ軀^レ六^レ寸^レ今^レ法^レ大^レ師^レ八^レ海^レ域^レの^レ之^レ也^レ
 不^レく^レ本^レを^レ親^レ世^レ者^レに^レ行^レ三^レ寸^レの^レ美^レ像^レ是^レ初^レ天^レ竺^レ佛^レ舎^レ
 産^レに^レお^レひ^レく^レ圖^レ像^レ櫃^レ舎^レと^レい^レく^レ釈^レ尊^レ四^レ千^レ二^レの^レ中^レに^レ是^レ法^レ鏡^レ
 今^レの^レ如^レ法^レ二^レ軀^レ一^レ刀^レ三^レ礼^レ一^レ彫^レ刻^レ一^レの^レ一^レ軀^レ四^レ寸^レ今^レ梁^レの^レ
 帝^レ於^レは^レ納^レめ^レ一^レ軀^レ六^レ寸^レ今^レ法^レ大^レ師^レ八^レ海^レ域^レの^レ之^レ也^レ
 不^レく^レ本^レを^レ親^レ世^レ者^レに^レ行^レ三^レ寸^レの^レ美^レ像^レ是^レ初^レ天^レ竺^レ佛^レ舎^レ
 産^レに^レお^レひ^レく^レ圖^レ像^レ櫃^レ舎^レと^レい^レく^レ釈^レ尊^レ四^レ千^レ二^レの^レ中^レに^レ是^レ法^レ鏡^レ
 今^レの^レ如^レ法^レ二^レ軀^レ一^レ刀^レ三^レ礼^レ一^レ彫^レ刻^レ一^レの^レ一^レ軀^レ四^レ寸^レ今^レ梁^レの^レ
 帝^レ於^レは^レ納^レめ^レ一^レ軀^レ六^レ寸^レ今^レ法^レ大^レ師^レ八^レ海^レ域^レの^レ之^レ也^レ

七之卷一

七

志成院とあるよかありあり

建者の大分草とくく子院増坊三百字はこり口来の御
新ふらひすとほご城之移列才の石刹より四重五軒の
小段の石段御座る今坊舎僅あり寺領あり

- 一本光院
- 一蓮華院
- 一極正院
- 一大宗院
- 一明王院
- 一王花院

善門院 慈眼院

元弘年中上郎の城に赤松公の赤心院城乃西之山祖
しく教ふ遊くうて今とまで古伝あり

- 一求女塚 又奥女氏書し女塚

おとろ塚の女の伝わりありし女と云

いしめ塚の二人乃男 小作田男 千勢男

大塚のあり 一ツハ生田川系末流村あり

- 一ツハ遠岡村あり
- 一ツハ佐吉川系末流村あり

万葉 一ツハ小作田の末流にいしめ女の子孫あり 福太郎

日 一ツハ若乃登のうまひし女の子孫あり 日

日 一ツハ塚のうまひし女の子孫あり 日

一ツハ大和物産社末流村あり 日

ひしめはのまありの黒石娘女ありうまひし女とていふ男

二人ありひしめりひしめりひしめりひしめりひしめり

和泉北条千勢氏ありおとろ塚ありおとろ塚あり

おとろ塚ありおとろ塚ありおとろ塚ありおとろ塚あり

出田の川はひびくをききおききぬ三人の男せよひ
て女乃親れきき川は流るゆりあきと射くわこ
ありんかへきんとも男どもとよれのとてゆりひ
ころよきのひらこと射つ今ひりりへ鹿のこを射る
何と云るもゆりども女射ひひりり

「佐佐木我身ききんはのまゆ田志川あめとあり
こ徳くは川身ききぬ二人の男とつとえ同く西
身とまけ果むんぬ親のじく怒そ取ひげとむり
ぬ男れききとす流へ事の女女の場りさうに母と母
うはげとさけのぬれ男の親乃とまゆ同本とて同本
場せよ化のまの人の争うは西のまを犯つと中く場りさ

我家の親をていづり船ゆくまきとひ終よせありり
け帰し本場の不徳とらけまきつとりりとの世と
とまのきりりてまきり

「東女隊ききぬはまおれぬとありやまきり」 佐和

建武の中お山田ききぬも東女隊まおれぬとあり又新田
美貞ききぬもお山田のあり

一 船寄 大石村おとく杜あり 正公さんききぬ

当必波豆川村大舟とていづり船ゆくもまきり

「まきりはのゆきまきりききぬとあり」 佐和

一 弓弦羽織 大石村のお

ひりし神功のまきりさんていづり船ゆくもまきり

上之巻

下之巻

ありけりといふは、今、
 下の約は浦母く、
 のり尻る又あまら、
 一、
 急、
 系、

〇、
 〇、
 〇、
 〇、

一、
 〇、
 〇、
 〇、

〇、
 〇、
 〇、
 〇、

社より川の岸に山を築き池を築き社を築き
中井に在り大井の山

○櫻山 社あり河内

○この松 三場の並木の内なる

○古井 方角つまびくまびくとも一徳を築

約魚橋と云作り川の末より一村あり

無神なるものほり徳をよおし又を徳の取せ造

らしめ徳の武原の徳を築の浦にふ入るありとて

まゝ集つてふくむ徳あり河内とてや

一瀬田浦 大の村を築るのる徳を造り

夫木 徳ありまのふお入り徳の田を築の浦にありとて 国信

日 其の社の離れ常風を河内徳山橋渡りしらす 光明の社

一 山崎城 河内とある山の方田の中にあり

は和志松佐徳判左衛門尉実徳城乃木

○日湯 色系新徳表 中寄 徳中 横谷 魚橋

西馬本 田中 け村と山崎のたをいふ徳ちく

徳と徳く徳とも 河内集徳乃河内あり

横谷に徳りし河内之月半に徳りあり

徳りけふ徳の山崎とて徳を築る徳

徳河ありと徳りし徳とて徳りけ

翌 ありぬす徳の徳を徳りし徳りし徳りし 上徳

一 中名新河 徳村にありし徳りし徳りし 徳りし

の海もよまされし高き森の民衆はよりなる村ま
あやと藤とひせりけ藤を都りて民衆の
村とらるるを藤とひくは村と社と建中名の
名平氏社よあり衆毎の四月の日社拜あり
○月隠松 今元村西とつぎいひ

昔は西よて藤村の福徳の社とありて
をりより一社社といふありありの社と云

一 藤原里 今元村の北の村ありや川あり

○同りな里の里の晴の社ありて方々あり

○同りな里の里の晴の社ありて方々あり

○同りな里の里の晴の社ありて方々あり

家隆 定家

○業平物傳修治古迹 け藤原の里の社ありて方々あり

○藤原の里の社ありて方々あり

○藤原の里の社ありて方々あり

○藤原の里の社ありて方々あり

○藤原の里の社ありて方々あり

○藤原の里の社ありて方々あり

○藤原の里の社ありて方々あり

○藤原の里の社ありて方々あり

○藤原の里の社ありて方々あり

○藤原の里の社ありて方々あり

家隆

○猿丸方々 光回極は所之村の内側に在り
のこりの傳説不詳猿丸を夫の塔の川方東

一 鶴塚 若菜川東の下の所に在り

○湯元の湯源 二位頼政先公の村あり
他を頼政と入るゑ湯元なるは若菜の浦の
あまきふりくゑ海浦人そとなくをよほし

一 湯元の某所 日本三条村の北に在り

○若菜の湯 湯元なるは若菜の浦の
海方は若菜の浦に引込みて之を傳言あり
山の傍に月次と云ふ所あり此の湯と傳言あり
蓋彼壞とて今事なきなり

湯元の松

一 若菜海 日浦 日浮 日沖

○若菜の浦 海に臨み此の浦もさしはなり

○若菜の浦 海に臨み此の浦もさしはなり

○若菜の浦 海に臨み此の浦もさしはなり

○若菜の浦 海に臨み此の浦もさしはなり

○若菜の浦 海に臨み此の浦もさしはなり

一 金澤山 赤出村の北に在り

○金澤山 赤出村の北に在り
の深親と云ふは是の山に在り
を記せば其の深親の山に在り
あまきふりくゑ海浦人そとなくをよほし

いふ事一書をいふ事と傳ふ

朝日廿八日輝る下二金千枚瓦万枚ト云

一 赤出者 去原の田里余りのたのか根一丈この浦

ひし神功皇后三韓征討しあひく築城しつり

ひし皇子の生れし是則ち之の御子後神天皇千代守一の

皇子の庶孫備前坂守二熊熊の皇子と云備前大菩薩かひ軍士と云

け流し集り毎と侍皇太后をたもひく南満南満巡り

陸路陸路のあし之皇子軍士討ちをせんくうら出の流り

ふのあしと云り秋の所赤木の流りをいまり

○その氏をわがらの雨なるは玉衣ぢんぬ

一 河原親之市商 赤出村と云にありと平城天皇



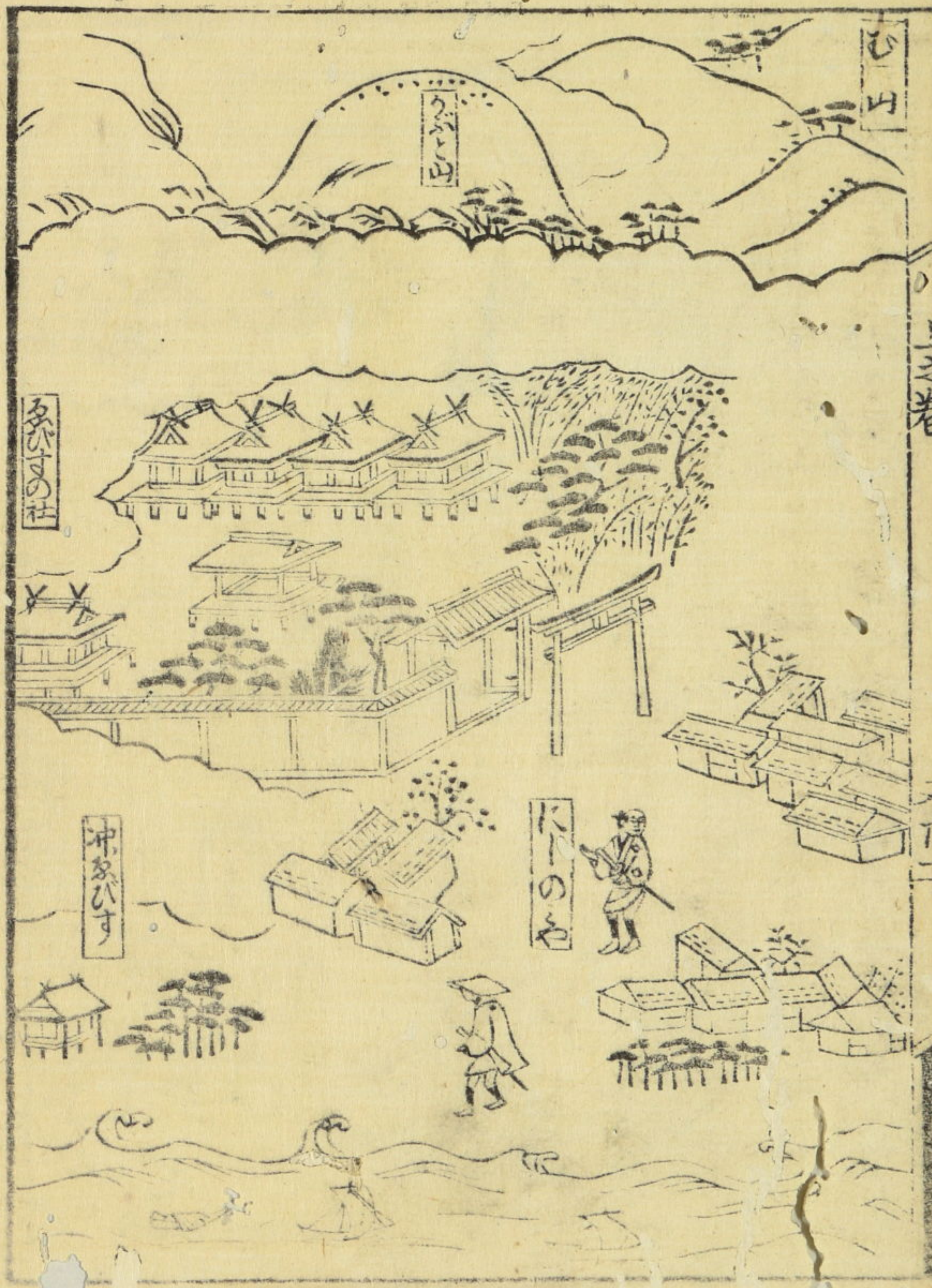
免原住言社

あしや

信り村

甘桂松のり

モリ



貞二皇子三品深心尹賜一和河保親王仁和三品
 仍年躬臣決之紀流の時此處と遷されるは并出村
 の内は別河保山親王とあり寺あり

一 宿河系 西文を丁余ありありの薦
 あり九和の志佛とありありの
 の在村又同郡和心をさして
 一 御前沖 西文の漢文の流も
 神功皇后三韓といひげあり
 のありありの流の流の流の流
 西文の流の流の流の流

海邊に所あり河川入る乃溪なり又美山は遠
俗の兵りおとほは比又理ありと給ふよ。又河川を
武原新と号し神功皇后統くことなり

一 我 ころくかき人の神と凡後を并んず人の物と給ふ

一 西 一 河川 狩列武原新なり武原をいふは神武天皇

一 河川 武原新なり武原をいふは神武天皇

一 河川 武原新なり武原をいふは神武天皇

一 河川 武原新なり武原をいふは神武天皇

一 河川 武原新なり武原をいふは神武天皇

一 河川 武原新なり武原をいふは神武天皇

一 河川 武原新なり武原をいふは神武天皇

河川をさるるなり天孫御孫はよきとて
棄めけしむるなりと給ふと約する夷捨ひるなり
て喜ひしづとて給ひぬるなりと給ふと約する夷捨ひるなり
のふと給ひぬるなりと給ふと約する夷捨ひるなり
ありぬるなりと給ふと約する夷捨ひるなり
又源氏ありありと給ふと約する夷捨ひるなり

○ 須賀社 ○ 藤原社 ○ 畠山社
○ 須賀社 ○ 藤原社 ○ 畠山社

○ 須賀社 ○ 藤原社 ○ 畠山社
○ 須賀社 ○ 藤原社 ○ 畠山社

容の夫と意く入瀬乃名を記し
 の後、成く林氏に因りて因かへ出づる意、
 此と法家各戸と同く社奉と、世傳十日、
 六月十五日八月は、
 至玉 一の海心心せ、
 結々 二の神と、
 ○又いふ、
 推古天皇九年三月聖徳太子始て、
 子の神は、
 うく法商人が、

名所記追加

一 廣田社 西乃まより、
 三十二社の内廣田八幡又神功皇后乃御事、
 又み河の、

- ▲一殿 住吉
- ▲二殿 八幡
- ▲三殿 廣田
- ▲四殿 南ま
- ▲五殿 八祖

毎年七月七日神あり、
 八月十八日後の神、

一 氏庫、
 六条、

夫木ひりほざく徳出でて...
今 妙のなる武庫のまはら...
○六甲山 武庫の續きより有馬郡...
府六甲の山内あり當山六甲...
つこう忍徳王てんとう...
発一三韓さうと侍...
軍應をとりて廢坂王及ひみ...
かぞと首あしら...
○甲山 右山饒き武庫六甲...
ぞとのしと四方内面よして...
なまに居く昆陽乃大地を造ら...

一 鷲林寺 此の山内より山号六甲山と云大
長十年弘法大師開基なる土面觀音乃像を安んず是則
六所彫刻の灵佛也天正中...
宝物旧記悉く焼失して後今...
一 感應寺 社尾村より山号六甲山と云始補
兜多し云阿山女言尼本...
の邊を像乃内は細く旧記...
一 角松原 此のや町より二丁東
五葉天女と云燒火たて...

一 津戸付

右に小村あり

けふた多田備仲乃海子びあよ山あゆの身代よき一
仲乃の子幸壽死の首を多田より捕ふしを捕らひ
池水よりあひまに埋より風葬を付ると松原山昌休
寺五心傳那乃同基之喜要丸石なりあり三月十日に池
の魚の起ると云ふ津門と云

一 鳴尾碛

海 浦沖より歌後

一 押照交

小より村かむ

かして海の子と教ふと云へり

松とれを教ふり難波の海がてらにまはしりし人

家は

一 小松崎

鳴尾後小より村の街乃より難波堀江に

松とれハ松

留交小松は三ヶ所を云

一 難波

難波とて風を度以れ小松が海より千鳥海より勝明法師

一 氏庫川

大河に

夫木

海の底にありといふ歌武吉川流れるにさしりし人か
むまの浦よりあしといふり高海より釣取波るより也

一 琴浦明神

乐彩田村

さつこの天皇牙十二乃子
の必六条河原院よかひて塩竈浦と撰
級一めあやとら

松原に海の祖家なり

仲正

一 猪名

遊河とく遊園ふも一あり山川

猪名川

遊園を那津内川迄とてといへり海濱漆冲川山也

一 難波里 乃より少一村あり尼崎八丁戌方

山所は梅あり 百瀬玉王仁の歌

春 雨ふは川は咲ぬいれ冬雪の今春分はくは花

一 堀江 月橋 あり高野寺のそとあり堀江

一 一 云當風西郡本付村とありてゆり今云といへり

仁徳天皇此御宇に郡にゆりての海と云のち廣く

田園す衆 霖雨よあふ潮のゆりて蒼里乃絶ぬまのわれ都

系を揺動水とて西海よ入んこのちて堤を築めとてあふ

源と堀江といへり

井

一 大物の浦 尼崎の湊を名付町家の中あり

定家

一 大物の浦 尼崎の湊を名付町家の中あり

け和原の東に西宮へ路あり見るとはまのたふはよあまを降ゆらん

旅者此所又建武の比秦乃武文御息所を供養云佐の云畑

下りんとあやこきけ耶とて賊難にありといへり

一 浦の初鳴 日渡辰巳あり

一 長洲村 日渡 尼崎より八丁

拾遺 人等波瀬の浦の風乃あはれいとして袖を折ぬ

一 神崎 尼崎より五丁天満より一里あり

一 神崎の浦 尼崎より五丁天満より一里あり

一 神崎の浦 尼崎より五丁天満より一里あり

和之巻の撰寶永七の寅年まゝ

- 一 福原三之坂 貞享二年 一 花巻藩梅 百三十三
- 一 津之浦 又厚子余 一 摩耶山 千三十三及
- 一 つきの水室初り 十三百二年 一 阿保志人寺 八百五并
- 一 楊正成ら記 三百十一年 一 津功自石 十五百二年余
- 一 月石碑建 二十の及 一 以基河川 九百五并及
- 一 乃山所記 九百五并余

兵庫名可記巻之上終

